



『 ぱんだより 』

※パンダからのお便りという意味で「ぱんだより」と名付けました。
 スパークスのアジア地域における情報発信レポート

第81号(2011年7月22日)多文化融合の地—上海



旧租界の地

上海は中国近代史において、重要なポジションを占めてきました。アヘン戦争の南京条約により条約港として開港した上海には、イギリス、フランス、後に日本、アメリカの租界が形成されました。

租界として発展した上海は20世紀初めから金融、ビジネスの中心として繁栄しました。今でもその面影が至るところに残っています。

東京の表参道のように、上海のファッションをリードする淮海路は旧フランスの租界で、日本の伊勢丹も出店しています。共同租界の南京路は上海最大の繁華街で、1200メートルに及ぶ歩行者天国の両側には様々な大型デパートが建設されています。黄浦江西岸にあるバンドはかつて行政と経済の中心として租界時代は栄え、ネオ・ルネッサンス様式、ネオ・バロック様式など凛々しい建物が建ち並んでいます。今では浦東側の東方明珠電視塔も加えて、上海を代表する観光名所となっています。

一方、租界以外の地域では、中国古くからの木造を中心とした建築物が残っており、豫園に代表される門前町のように民間工芸品を中心とした商業施設が建ち並びます。

バンドに建ち並ぶ歴史的建築物



豫園



出所:スパークス・アセット・マネジメント撮影



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。



『 ぱんだより 』

スパークスのアジア地域における情報発信レポート



現代都市としての上海

近年、上海は90年前後に一時、地盤沈下したと言われたこともありました。しかし、92年に開始された浦東新区の開発を起爆剤として、再び世界有数の商業、金融、工業、交通都市になりました。

その過程において、外国資本は大きな役割を果たしました。金融を初め、デパート、スーパーマーケットなど日常生活の様々な側面で世界中に親しまれた海外企業が上海の町並みを構成しています。中でも特に日本企業の進出が近年増加しています。セブンイレブンやファミリーマートなどのコンビニエンスストアは至るところに建ち並び、上海人の生活においても重要な要素となりつつあります。

上海に滞在している外国人は約15万人いますが、日本人は約4万8千人と約3割を占めています。隣接する江蘇などを合わせると、10万人以上の規模で、海外一の規模の日本人コミュニティも形成されています。

旧租界時代の建築物の中にできたセブンイレブン



出所：スパークス・アセット・マネジメント撮影

(編集後記) 上海には高さ60m以上の高層ビルは約8000棟以上もあります。同様のビルが日本全国では約2000棟ですので、上海は日本の約4倍に匹敵する規模となっています。

(GDP48)



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。